

☆2011年度調査へのご協力ありがとうございました☆

■■===== 2012/2/27 発行=====■■■

本号の主な内容

【小児科医コラム】インフルエンザ特別編：インフルエンザの型  
【WLB関連事情】内閣府：『ワーク』と『ライフ』の相互作用に関する調査 から

〈事務局から〉

みなさんこんにちは。  
東京大学「ワーク・ライフ・バランス(WLB)と健康に関する調査」事務局です。  
2011年度のWLB調査へのご協力ありがとうございました。  
現在事務局では、ご報告の準備作業などを行っております。  
皆様へのご報告につきましては、個別の結果報告は  
3月上旬にお届けすることを目指しております。  
また、全体の報告書は4月にホームページにアップする予定です。  
結果のご報告まで、しばらくお待ちください。

さて、乾燥した日々のなか、まだ雪のちらつく日もありますが、  
手洗い、うがいで、健やかにお過ごしください。  
メルマガ第9号をお送りします。

【 Dr. 伊藤のすこやかコラム： インフルエンザの型】

～インフルエンザ特別編「敵ながら天晴れ」～

【インフルエンザの現状】

この記事を書いている2月中旬現在、インフルエンザが流行の  
ピークを迎えています。

2009年の新型インフルエンザ流行時ほどではありませんが、  
学級閉鎖している学校も数多く、小さいお子さんがいるご家庭では大変苦労  
されていることと思います。

【インフルエンザの型】

インフルエンザウイルスは単純に1種類ではなく、ウイルス表面のタンパク質が  
少しずつ違って何種類もあります。誤解を恐れずに例えると、「着てる服が違う」  
ようなものです。着ている服(=株)に対して「Aソ連型(H1N1)」  
「A(H1N1pdm09)」 「A香港型(H3N2)」 「B型」などそれぞれ名前を付けています。

【去年、一昨年、流行した型】

去年と一昨年は、2009年に登場したインフルエンザA(H1N1pdm09)が  
流行の主流でした。それが今年は鳴りを潜め、代わってA香港型が  
ブレイクしています。A香港型が主役に返り咲いたのは5年ぶりのことです。

【型とワクチン】

「ワクチン株の予想が外れたせいで、今年はインフルエンザが大流行している」  
という噂を最近耳にしました。出所ははっきりしませんが、  
その噂の誤解を解いておこうと思います。

インフルエンザワクチンは、国立感染症研究所を中心とした専門チームが  
次のシーズンの流行を予測して、製品となるワクチンの株が決められます。  
だいたい1～3月頃に株の選定会議が行われ、5月に厚生労働省がGoサインを  
出してメーカーが製造を始め、9月下旬には市場に出るスケジュールです。  
なので、2012年2月現在、もう次のワクチンをどうするか  
専門家は考えていることとなります。

今シーズン使われているワクチン株の選定経過が、HPで公表されていきました。  
これを読むと、今年のワクチンは

A (H1N1) pdm09  
A (H3N2)  
B

の株が含まれていることが分かります。  
参照：<http://idsc.nih.gov/iasr/32/381/dj3813.html>

A (H3N2) が含まれているので、ワクチンは A 香港型に対応できていることとなります。

【今年の流行と、抗体保有率】  
では、なぜ今年は患者が多いと感じるのでしょうか。

その答えの手がかりは、「抗体保有率」にあります。

難しい言葉が出てきました。すみません。

「抗体」はウイルスと戦ってくれる自己防衛力、  
「免疫」とほぼ同じ意味と思って下さい。あるウイルスに対して、  
免疫を持っている人が何割いるかを示すのが「抗体保有率」になります。

毎年夏ごろ、全国から無作為に選ばれた方から採血をして、  
抗体の有無を調べています。最新の調査結果を見ると、  
A (H1N1) pdm09 に対して A (H3N2) の抗体保有率が低くなっています。  
参照：<http://idsc.nih.gov/yosoku/Flu/2011Flu/Fig/2011-3Fig1.html>

A 香港型の大規模な流行は 5 年ぶり、免疫を持っている人の割合が  
減ってきているところに流行が来たので患者さんが多い、と考えると納得がいきます。

ちなみに 0-4 歳で約 3 人に 1 人が A 香港型の抗体を持っています。  
5 年間流行がなかったのに何故？と思われる方もいらっしゃるかもしれませんがね。  
それは、この 5 年間に小規模の流行はあったということと、ワクチンに  
A 香港型の株が入っていたので予防接種していたお子さんは抗体を  
持っている、という理由によるものです。

【人類とインフルエンザ】  
人類の歴史はインフルエンザとの戦いの歴史である、  
と言ったら大げさですが、人間の抵抗力をよく見極めて、型を変えながら  
攻撃してくるインフルエンザは敵ながら天晴れと思ってしまいます。

<埋め草>

A ソ連型、A 香港型と呼びやすい通称があるのに、2009 年の  
新型インフルエンザは A (H1N1) pdm09 という正式名称はあっても  
分かりやすい通称がありません。豚インフルって一時呼ばれていたから、  
「A ブタ型」なんていいんじゃない、と思いますがいかがでしょうか。  
解説 / 伊藤淳 (小児科医)

---

## 【WLB 関連事情：『ワーク』と『ライフ』の相互作用に関する調査 から】

---

～WLB と健康 周辺のトピックについてご紹介します～

■ 「ワーク」から「ライフ」への影響について ■  
～「職場の仕事と生活の調和のはかりやすさ」は  
「生活の満足」と、「職務満足」に良い影響を与えている可能性が高い～

● 「職場の仕事と生活の調和のはかりやすさ」は、  
「生活の満足」に良い影響を与えている可能性が高い。

—「仕事と生活の調和 (WLB) がはかりやすい職場」であるとの従業員の認知、  
つまり、従業員に「WLB の取りやすい職場だなあ」と思われることに関連が  
みられた要因は、諸制度の導入よりも、「上司からのサポート」などの職場の  
サポート資源、また「人材活用」といった人的資源管理の在り方、「職場滞留」  
といった職場の風土・慣行等の影響が概して大きいことがわかりました。  
諸制度があるだけでは、WLB が取りやすいという従業員の認知にはつながりにくく、  
サポートや、人的資源管理、職場の風土を含めた取り組みがなされることが重要な可能性が示唆されました。

—「職場の仕事と生活の調和のはかりやすさ」は、

